

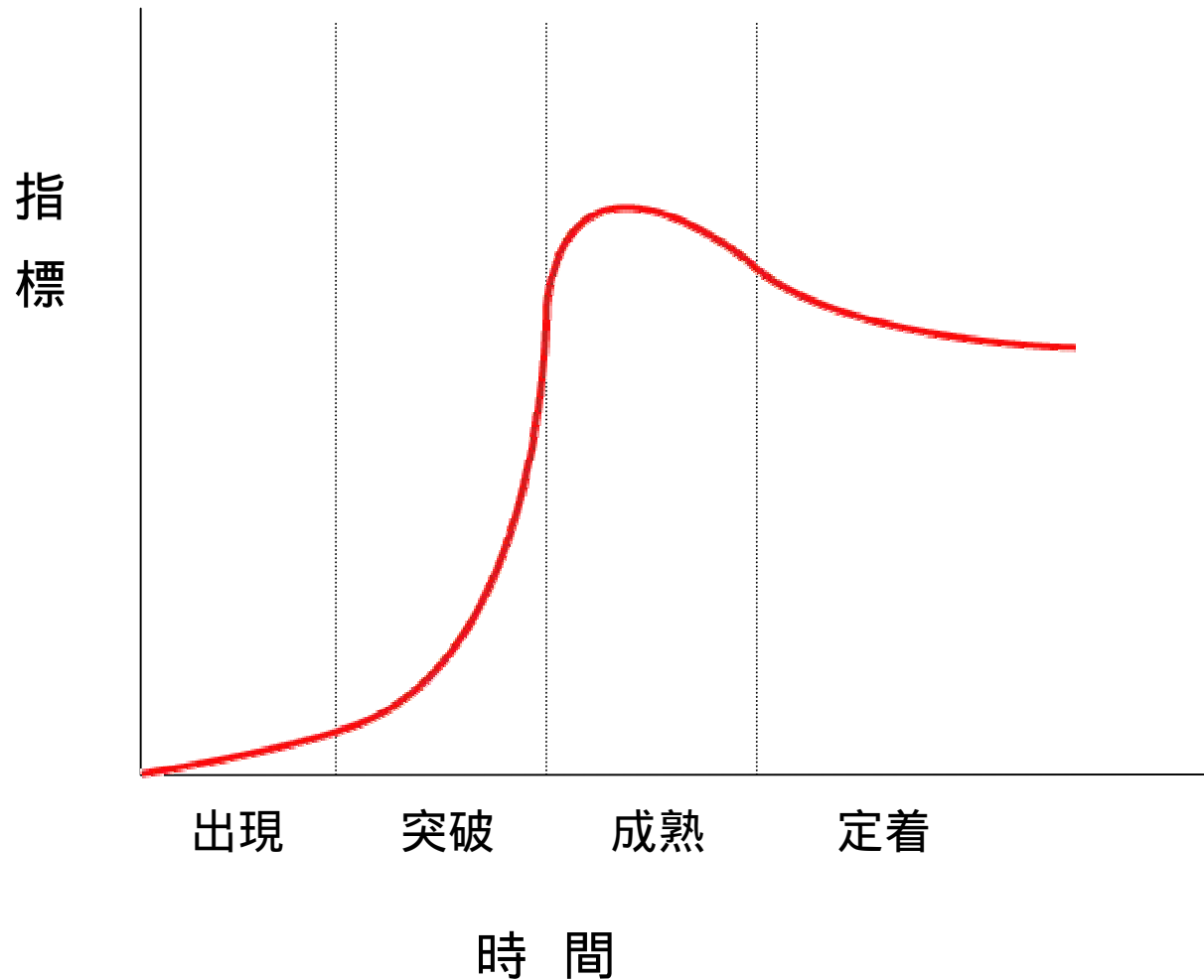
21世紀近代文明の展望

新日本未来学会講演

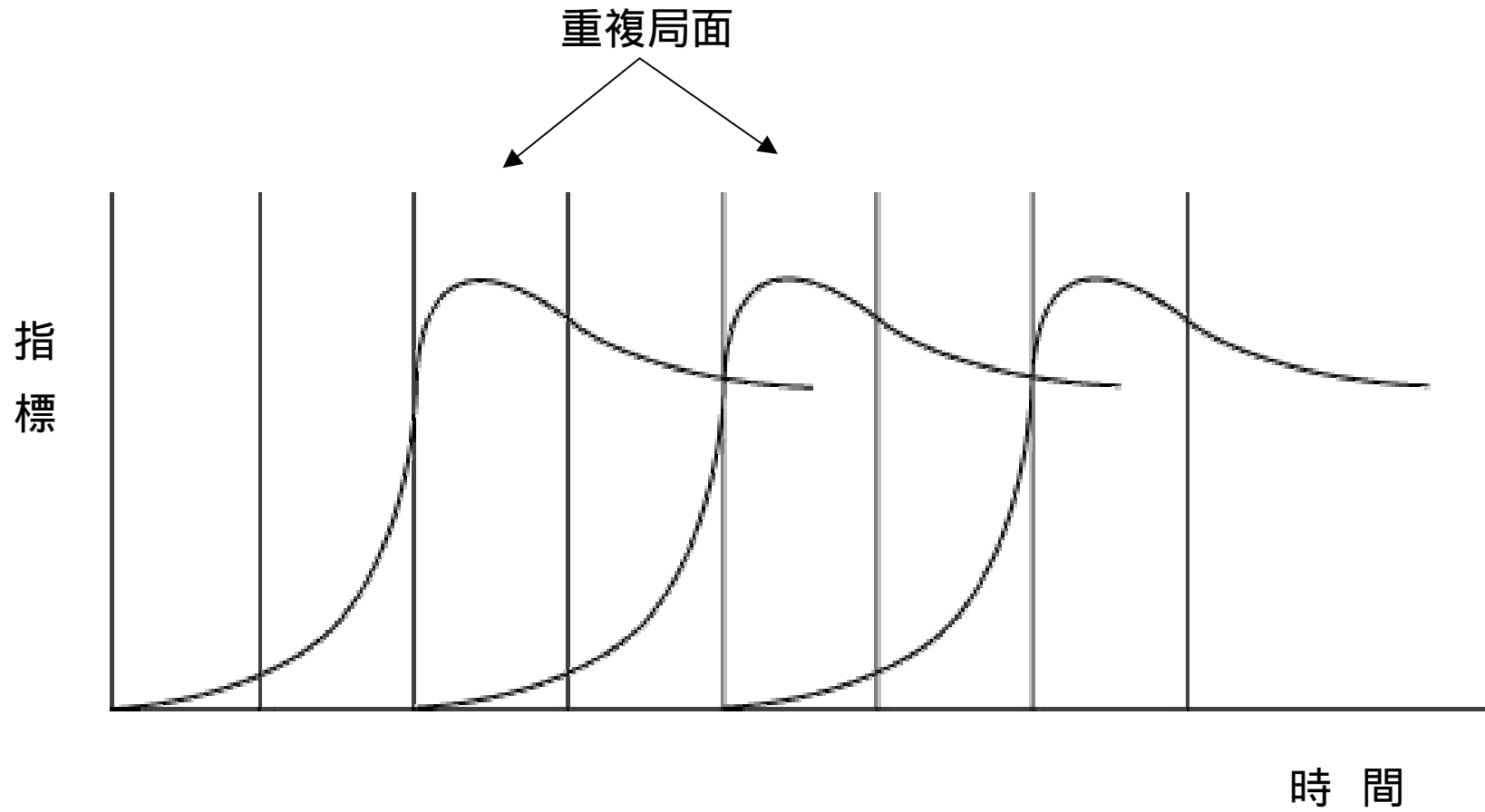
2007年11月10日

変化を捉えるためのモデル

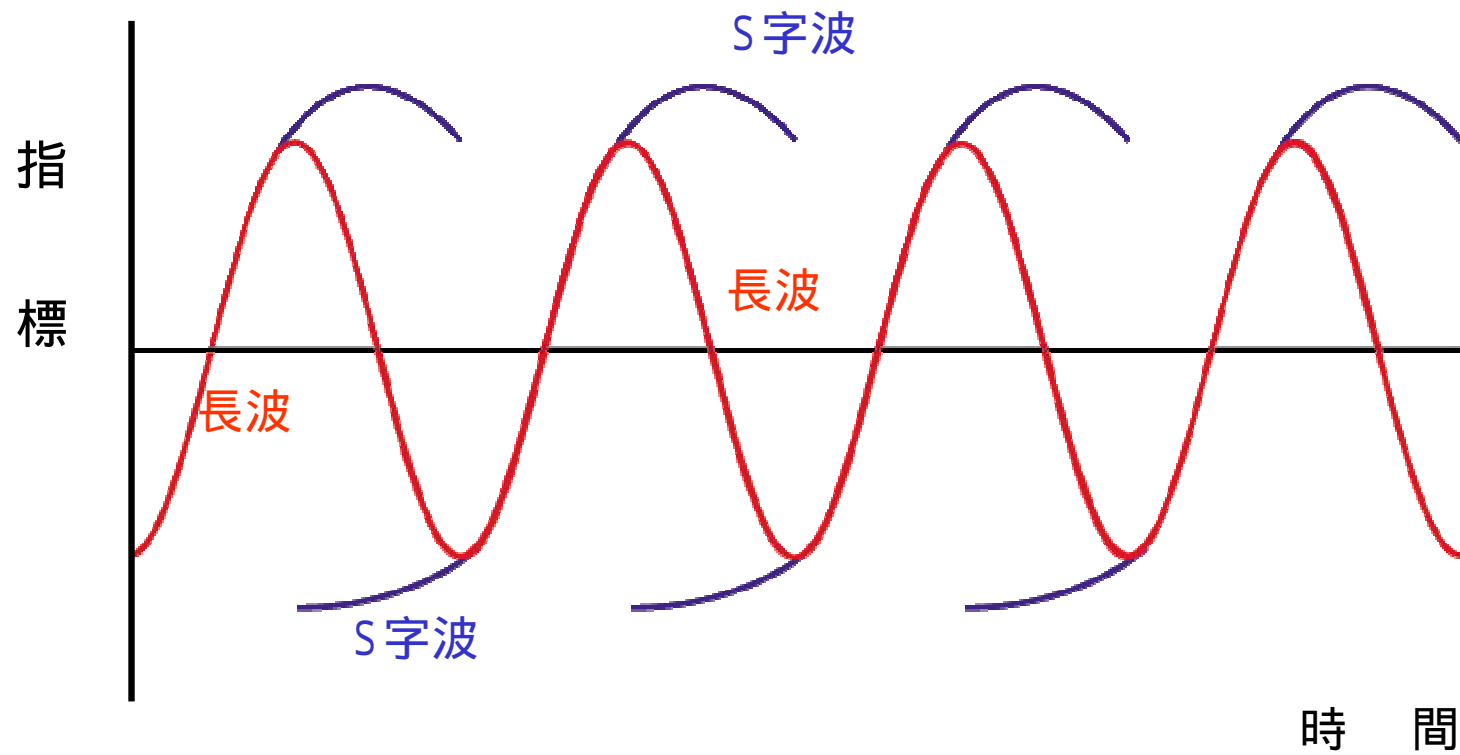
S字波の基本型



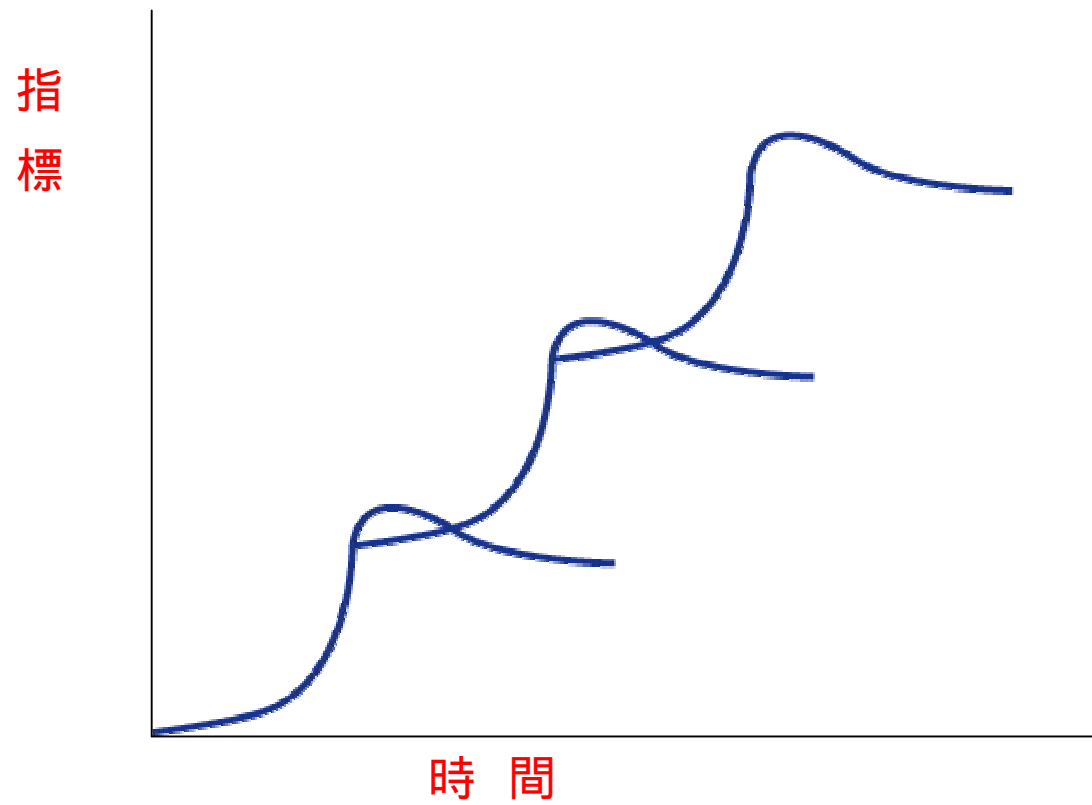
S字波の継起



S字波と長波

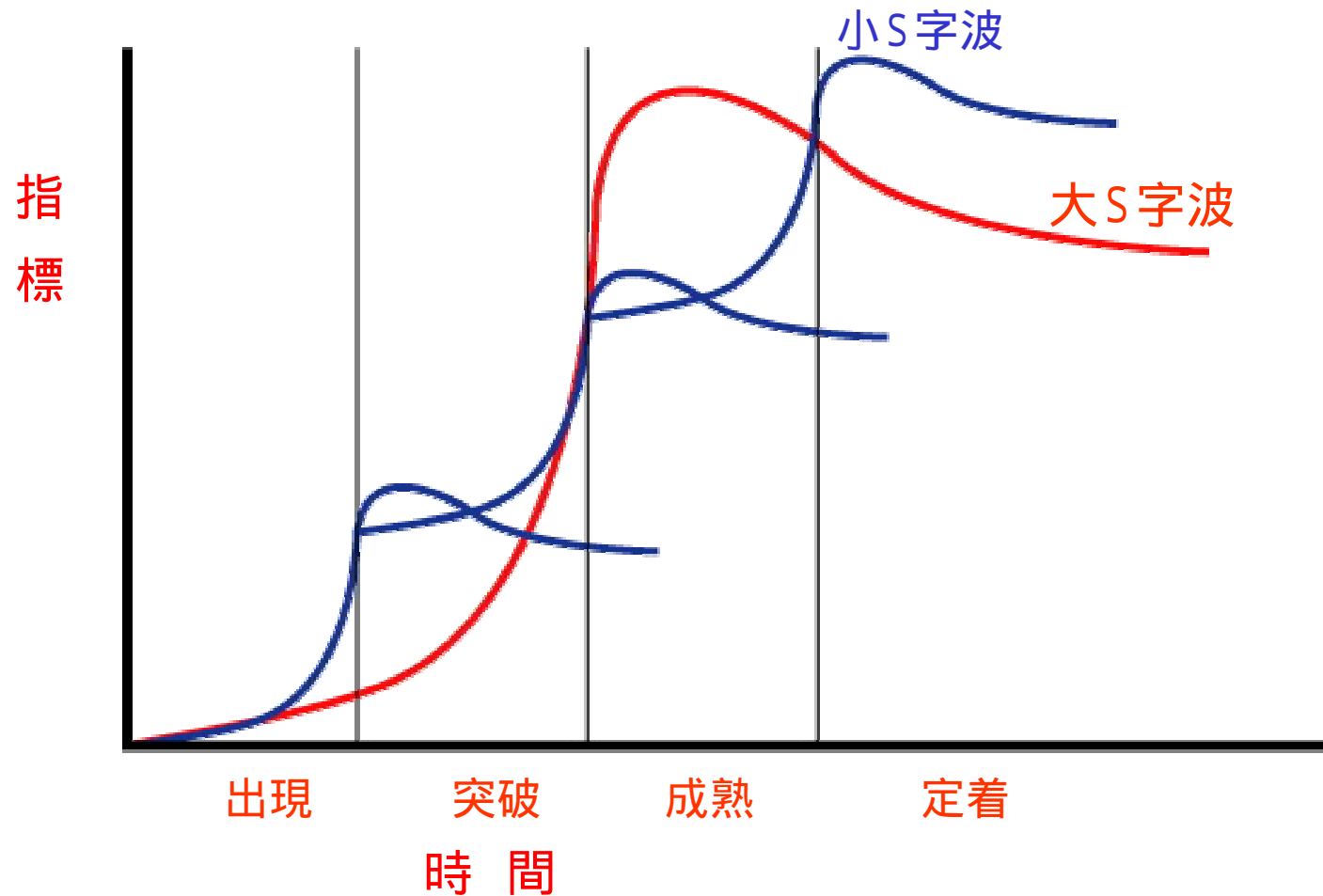


S字波の連鎖



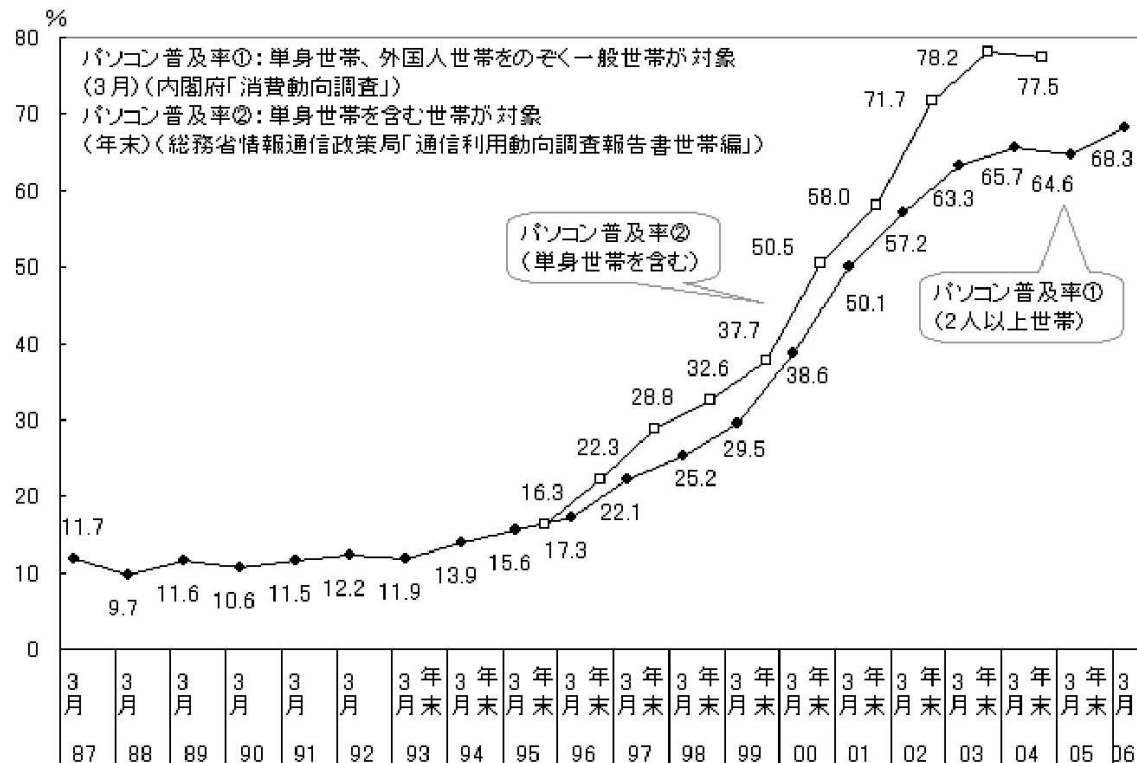
S字波の分解と重畳

社会変化のフラクタル構造



例：パソコン世帯普及率

パソコン世帯普及率

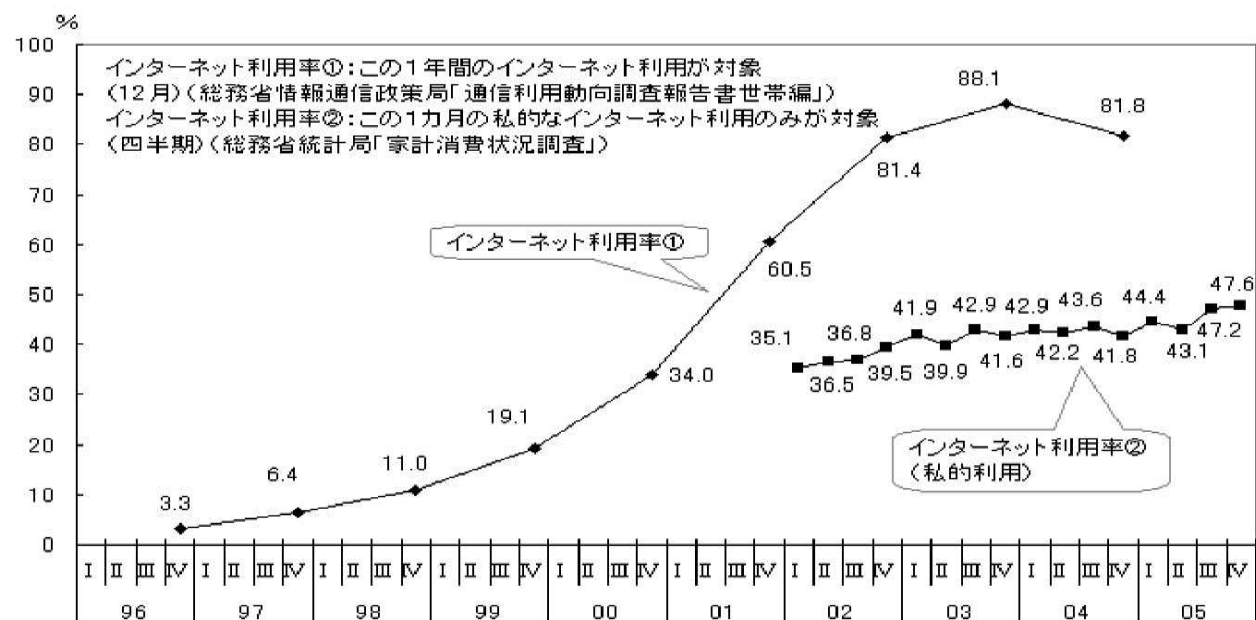


2005年内閣府・総務省調査

<http://www2.ttcn.ne.jp/~honkawa/6200.html>

例：インターネット世帯利用率

インターネット世帯利用率の推移



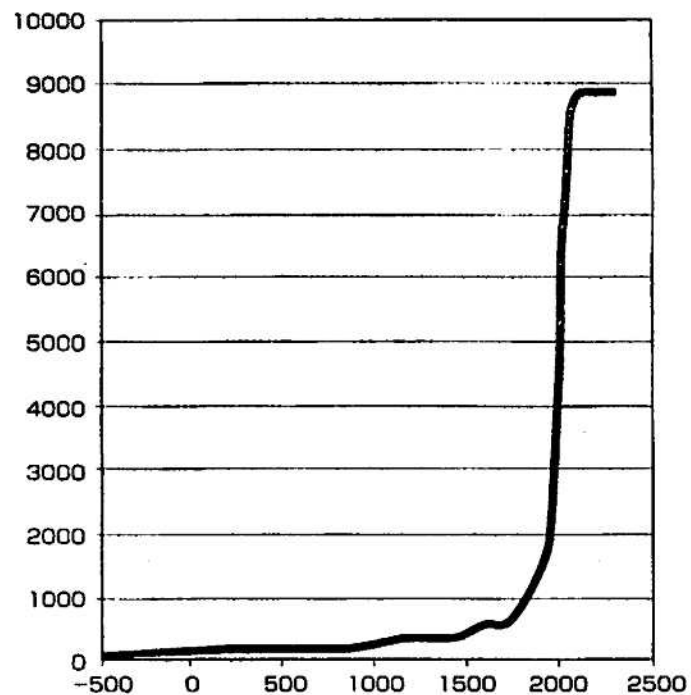
(注) どちらの率も単身世帯を含む全世帯に占めるインターネットを利用した世帯員がいる世帯の比率であり、パソコンや携帯電話などインターネットの利用機種や利用場所を問わない。
インターネット利用①の公私利用の限定は次の通り毎年やや異なる。96:自宅で利用、97-98:公私限定せず、99:自宅での使用(携帯電話単独利用を含まない)、00:自宅での利用、01-02:公私限定せず、03:個人的使用

2005年内閣府・総務省調査

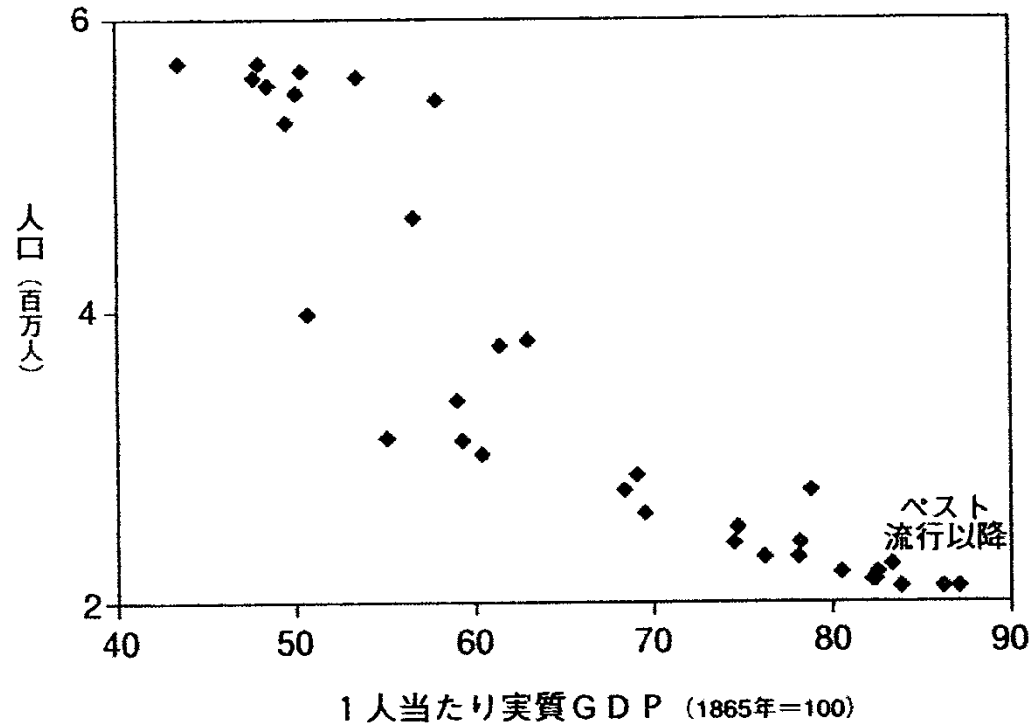
<http://www2.ttcn.ne.jp/~honkawa/6200.html> 8

例：世界人口のデータと予測

グラフ 1.6 世界人口の増加 紀元前500年～西暦2300年【単位：100万人】



例：西欧中世のマルサスの罠

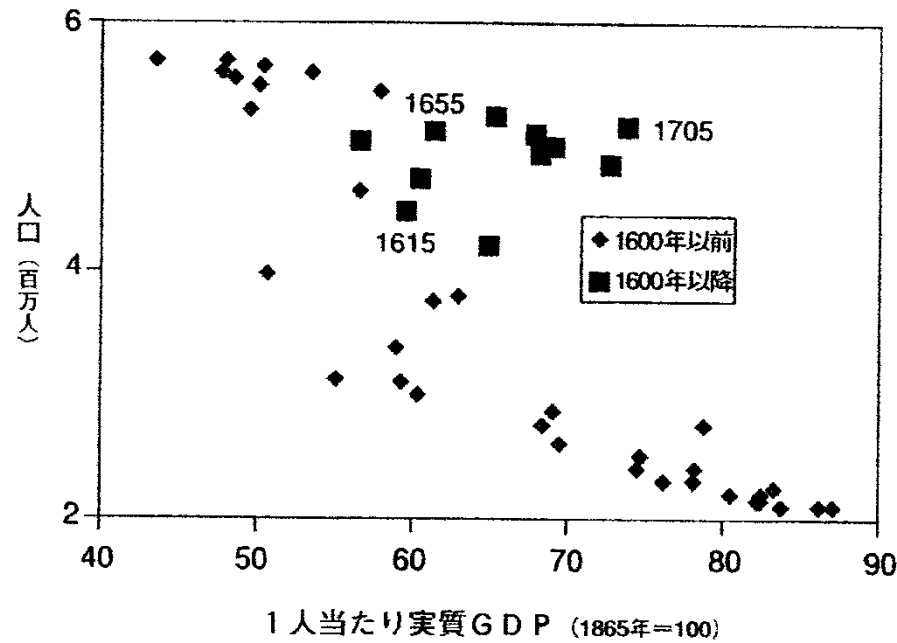


出所：バーンスタイン09

図1・1 英国に見る「マルサスの罠」 1265年－1595年

出所：人口データは、Michael Anderson, ed., *British Population History from the Black Death to the Present Day* (Cambridge: Cambridge University Press, 1996), 77による。1人あたり実質GDPは、Gregory Clark, "The Secret History of the Industrial Revolution," *Journal of Economic Perspectives*, 2001, 17による。

例: ゆるむ罖

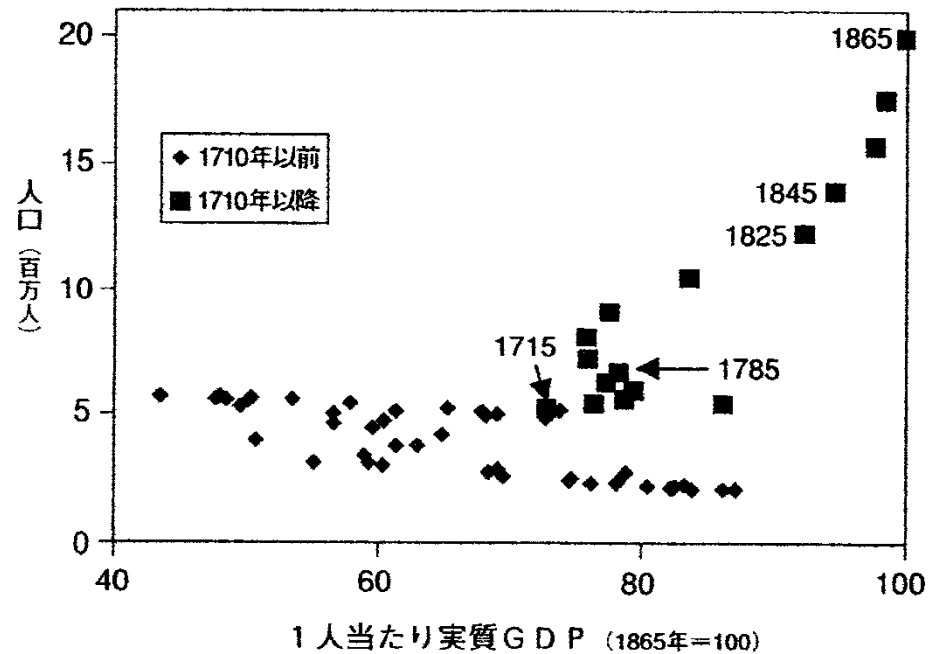


出所：バーンスタイン09

図1・2 1600年以降に見られる「マルサスの罖」

出所：人口データは、Michael Anderson, ed., *British Population History from the Black Death to the Present Day* (Cambridge: Cambridge University Press, 1996), 77による。1人当たり実質GDPは、Gregory Clark, "The Secret History of the Industrial Revolution," *Journal of Economic Perspectives*, Vol. 15, No. 4, 1999, 131-148による。

例：罨からの脱却 西欧型近代S字波の始まり



出所：バーンスタイン09

図1・3 1800年以降に見られる「マルサスの罨」からの脱出

出所：人口データは、Michael Anderson, ed., *British Population History from the Black Death to the Present Day* (Cambridge: Cambridge University Press, 1996), 77による。1人当たり実質GDPは、Gregory Clark, "The Secret History of the Industrial

例：近代的経済成長 = 産業化

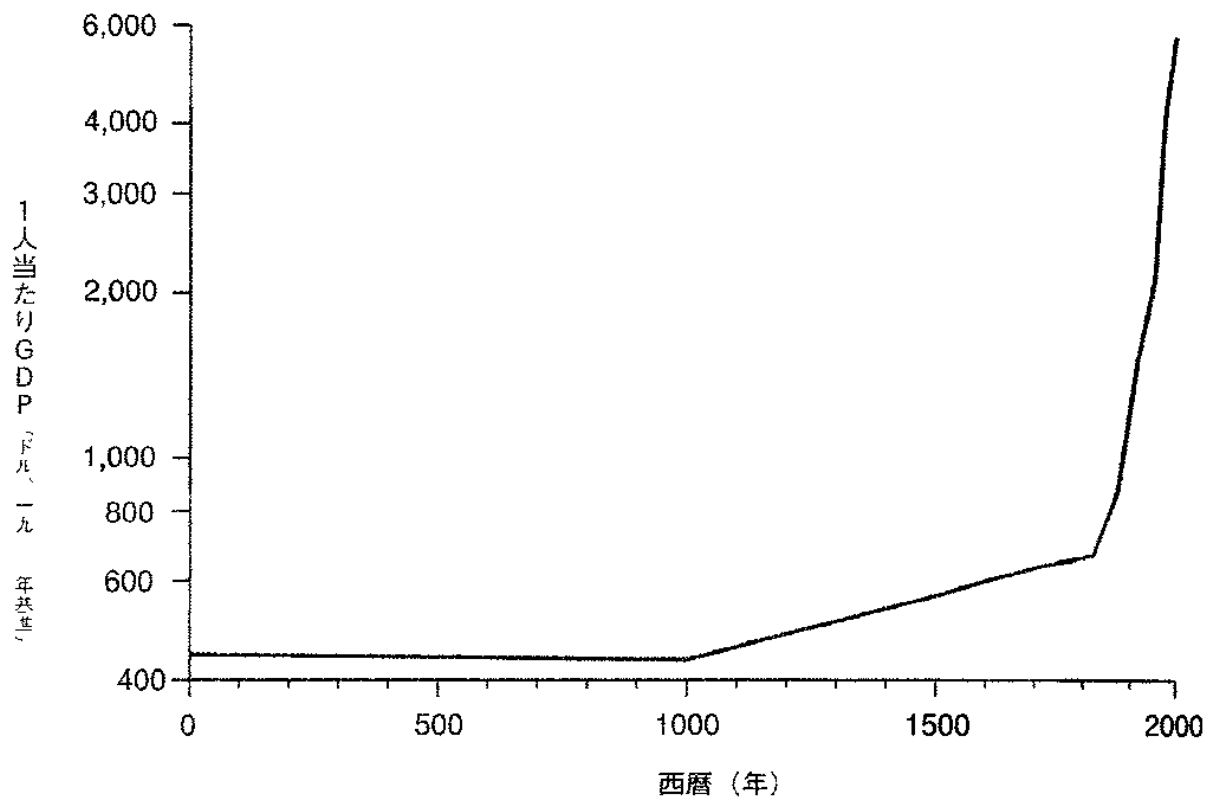
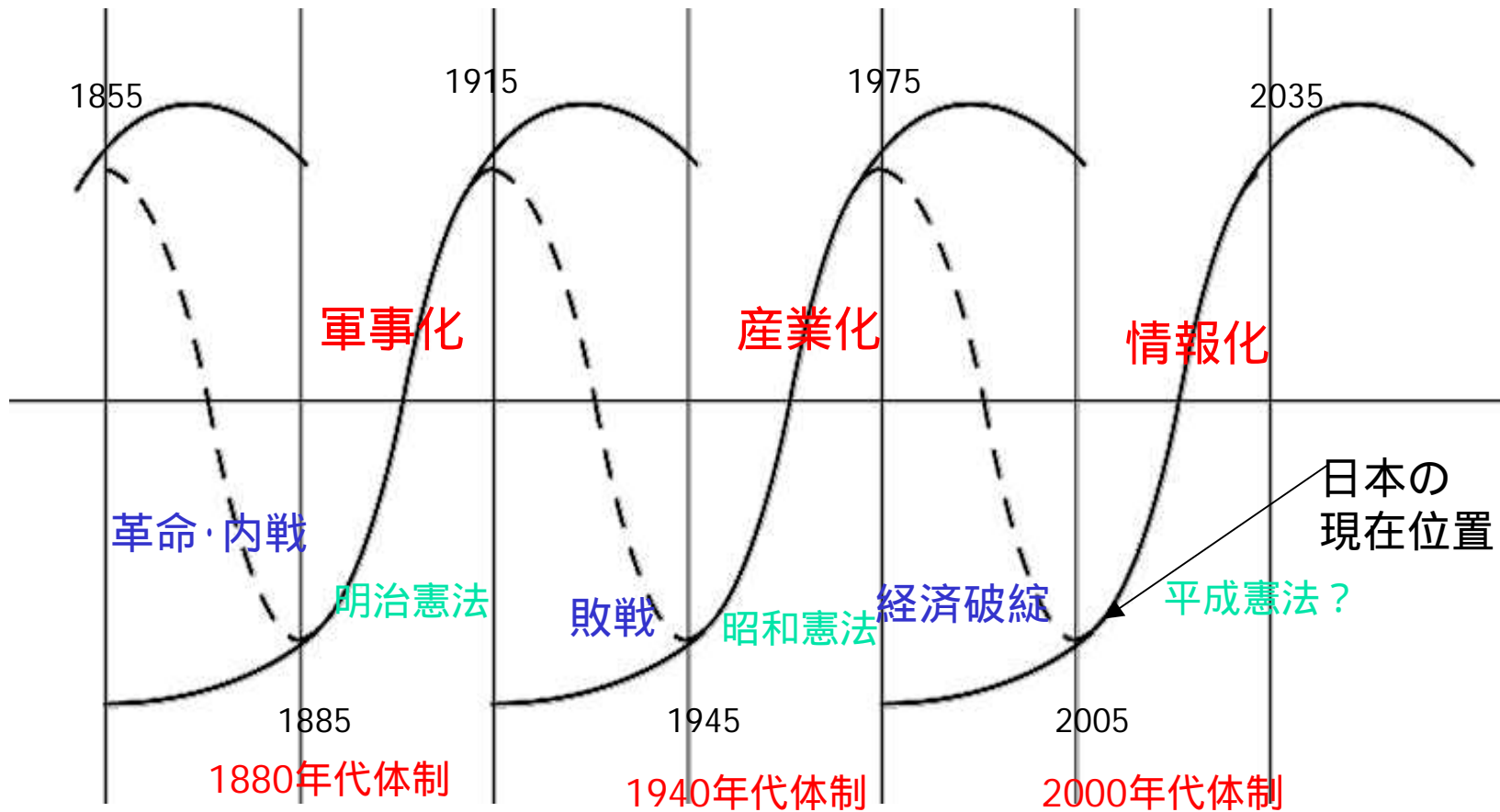


図1・4 世界全体の1人当たりGDPの推移 (インフレ調整後)

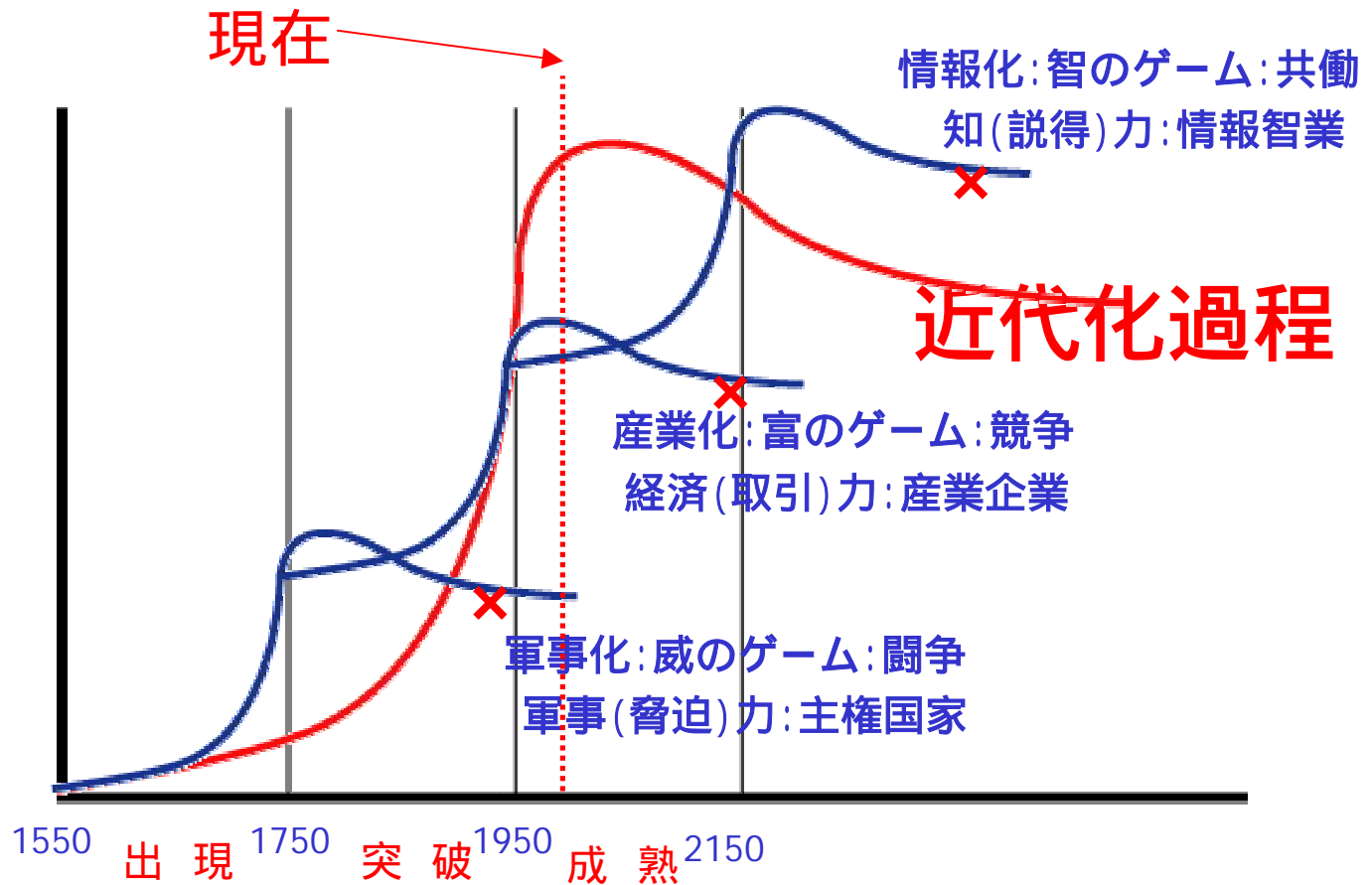
出所：パースタイン06

例：西欧化日本の 90年S字波と60年長波

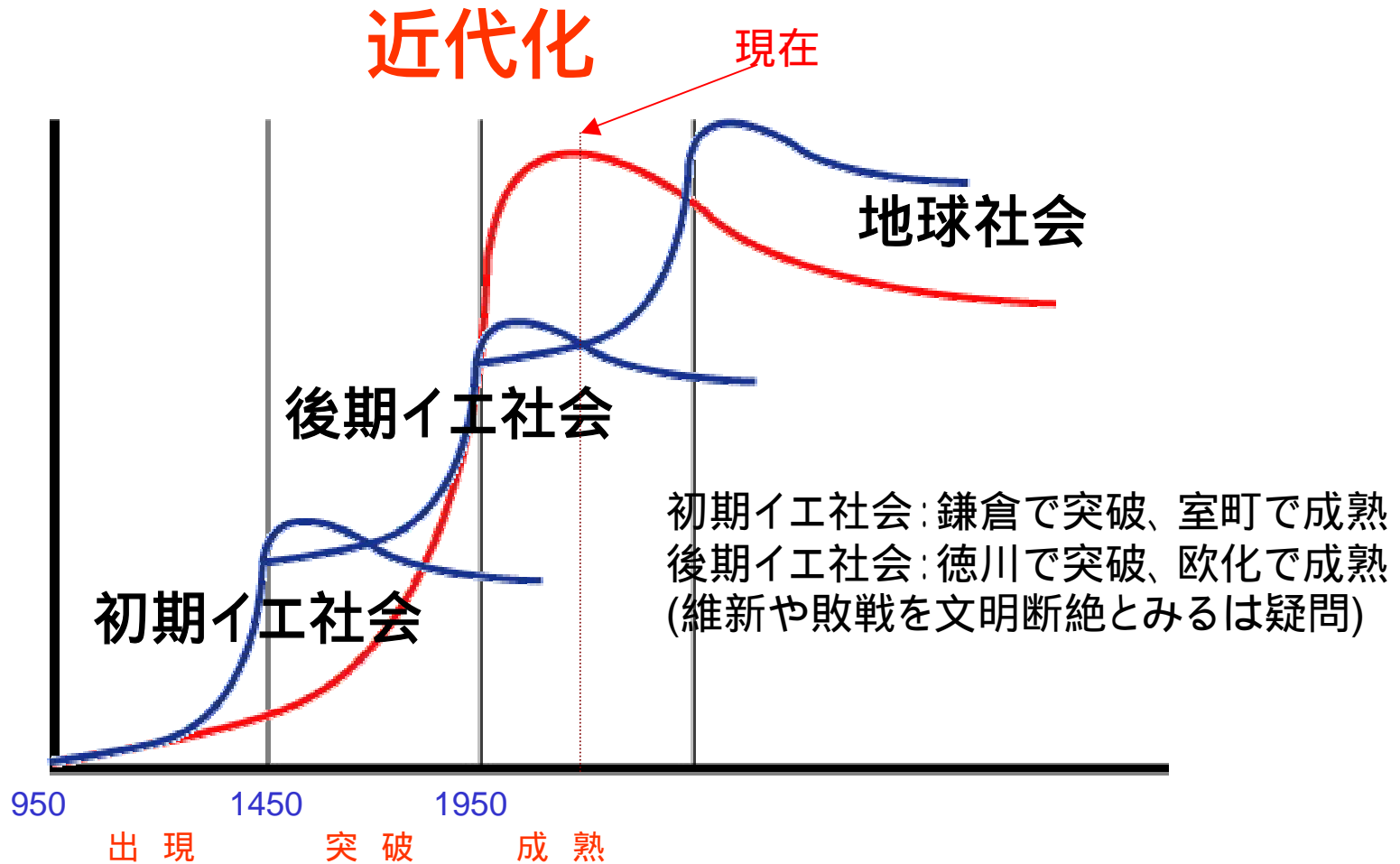


西欧的近代化の三局面仮説

近代化 =
エンパワ
メント
&
アクティビ
ズム



広義の近代化：日本「イエ」社会



社会を観る二つの視点 「文明」と「文化」

- 文明: ヒトの集団がつむぎ出す
生活維持システム: 意識的に運用
- 文化: 文明を解釈・構築・運用するために
「脳」が集合的にもっている原理:
無意識的に伝達・運用(世界観・価値観)

文明と文化の分類手がかかり

- 文明：三段階区分
 - 物的技術：採集・狩猟 農耕・牧畜 軍・産・情
 - 心的技術：呪術 宗教 「智識」
- 文化：二分法
 - 未来・発展志向 ~ 過去・存続志向
 - 対立・支配志向 ~ 調和・棲み分け志向

文明進化の三公準

- 未来指向型の文明と過去指向型の文明は互いに交代する
- 未来指向型の文化をもつ文明は物的技術の突破に成功する
- 過去指向型の文化をもつ文明は心的技術の突破に成功する

文明の六基本型

- 物的技術突破型
 - (始代文明) 古代文明 近代文明
- 心的技術突破型
 - 呪術文明 宗教文明 (智識文明)
- 始代 呪術 古代 宗教 近代 智識

現代の特徴 = 近代文明の成熟局面

- 近代文化
 - 人間中心的進歩主義
 - 手段的能動主義
 - 分権的自由主義
- 近代文明制度
 - 国民国家
 - 産業企業
 - 新主体としての情報智業
 - NGO-NPO-CSOs

「近代文化」と「宗教文化」

輝く**未来**

絶えず新しく
無限の進歩を

~

輝く**過去**

模範は過去に
復古こそ理想

手段が大切

権力・金・知識

自由が進歩を生む

~

目的が大切

真・善・美・正・義

~

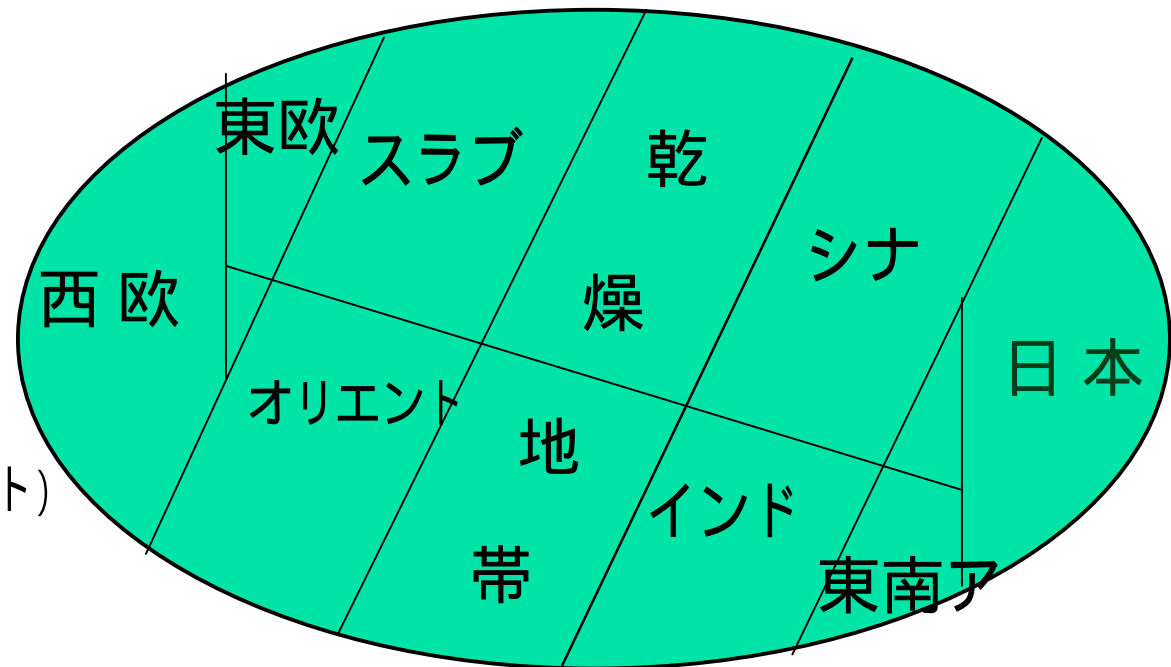
規律が秩序を維持

現代世界の二大文明地域

第一地域:近代文明
西太平洋
東大西洋
新大陸

第二地域:宗教文明
:道教(シナ)
:ヒンドゥー(インド)
:基督正教(スラブ)
:イスラム(オリエント)
:仏教(南アジア)

ユーラシア大陸



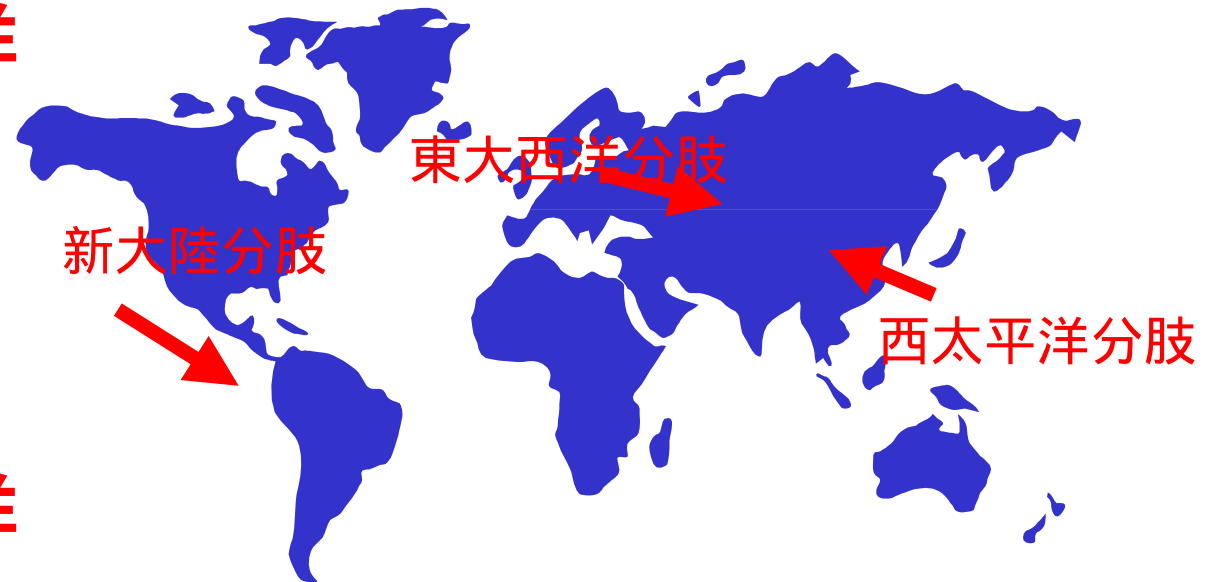
梅棹:「文明の生態史観」

近代文明の三つの大枝

◇ 東大西洋

◇ 新大陸

◇ 西太平洋



近代文明の伝播と成熟：中南米へ、ユーラシアへ

取り残されるアフリカ

宗教文明の典型的言説

- 西欧近代文明の生み出した文物のもとにはすべて中国にあった

「近年ヨーロッパで盛行の新文化と話題の無政府主義と共産主義は、すべて我々中国に何千年も前からあった旧物である。」 孫文

古田[03:68]

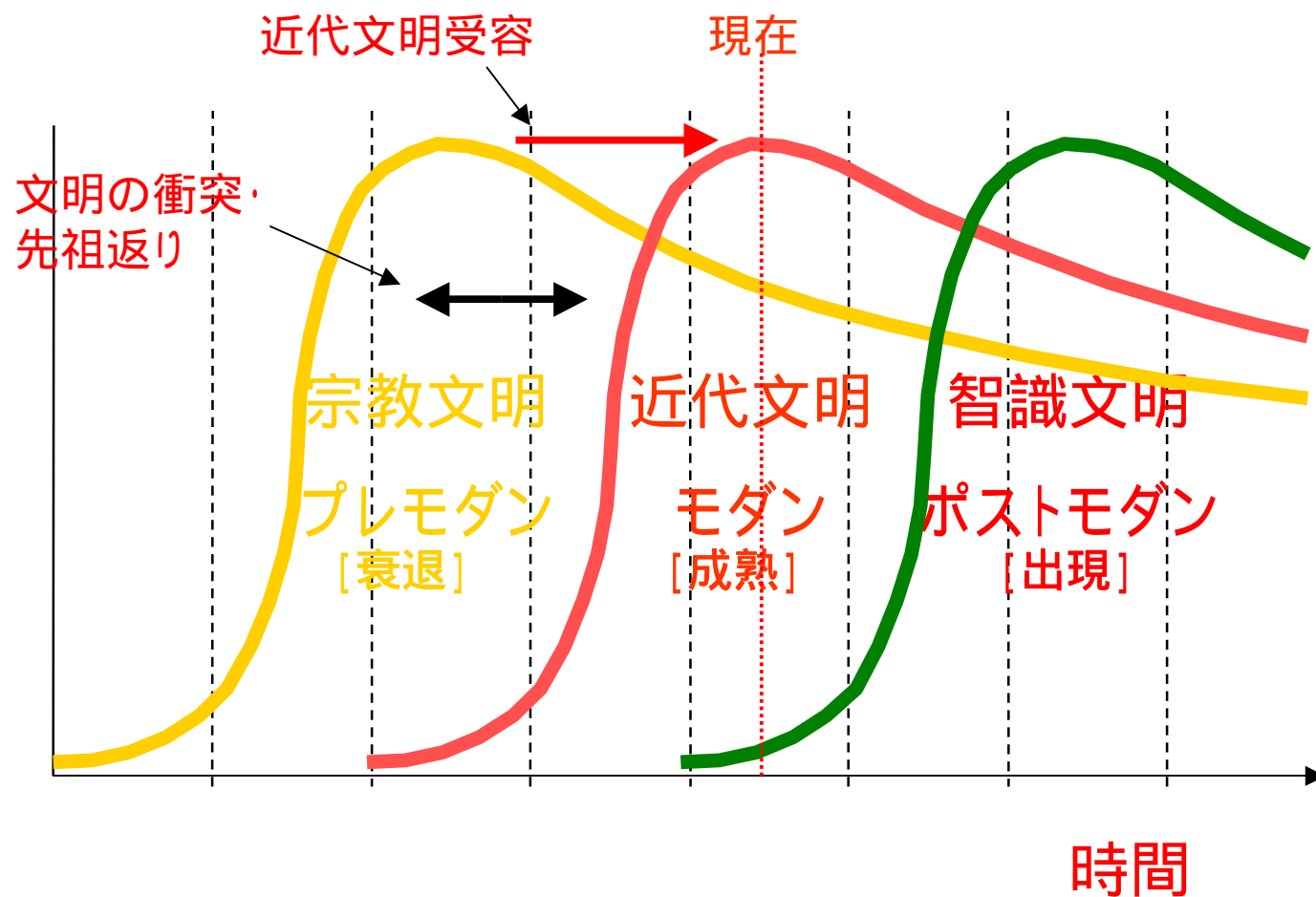
近代文明の典型的言説

知識や技術なら時代とともに蓄積していきます。私はニュートンの解けなかった数学の問題を、鼻をほじくりながらあっという間に解いてしまいます。これはもちろん、私の方が頭が良いからじゃありません。私が数学的知識でニュートンを圧倒しているからです。

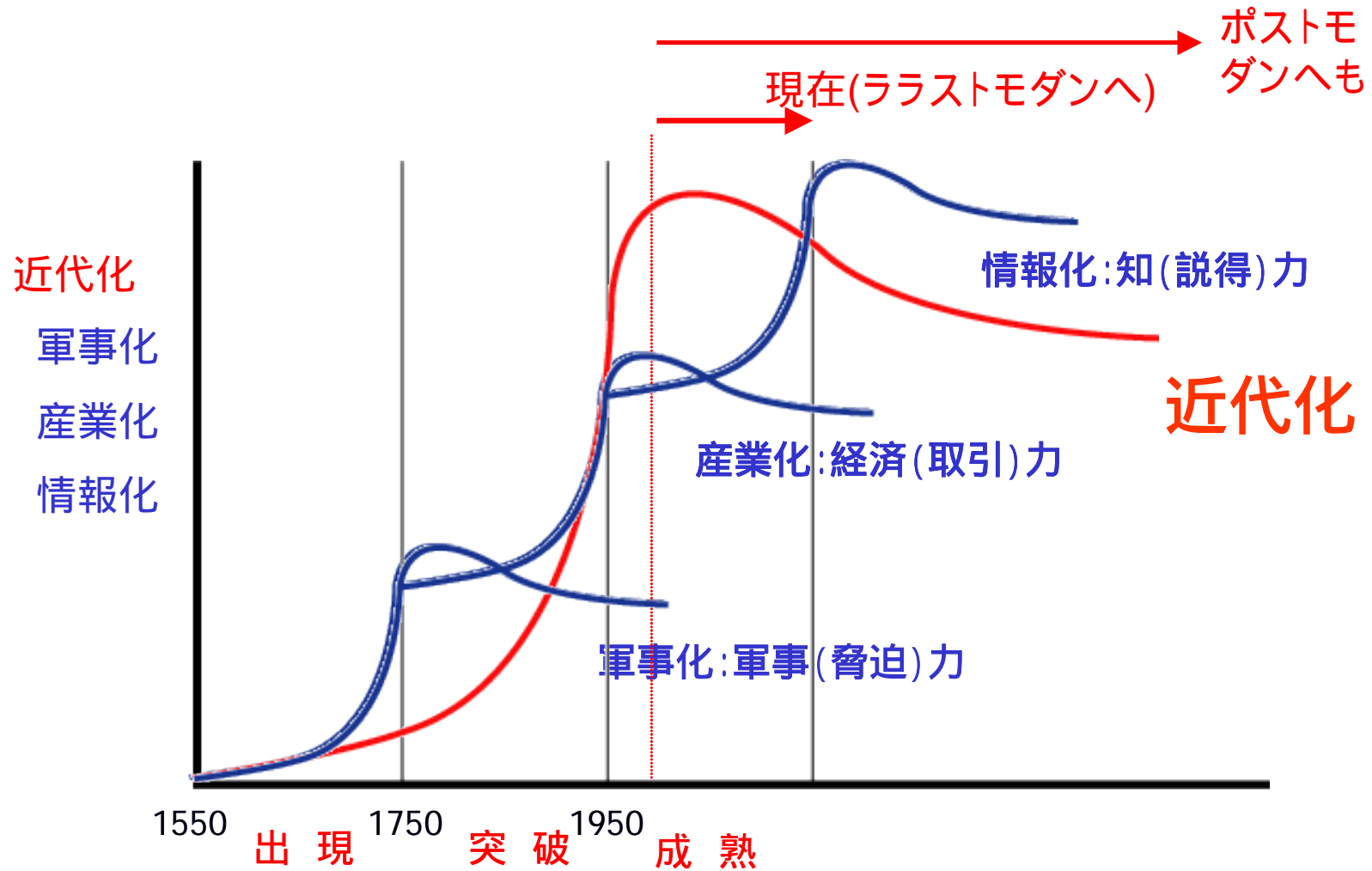
藤原正彦『国家の品格』、154ページ

現状認識：主要三文明の並存と継起

文明の「衝突」か「伝播」か？ World is flat!!



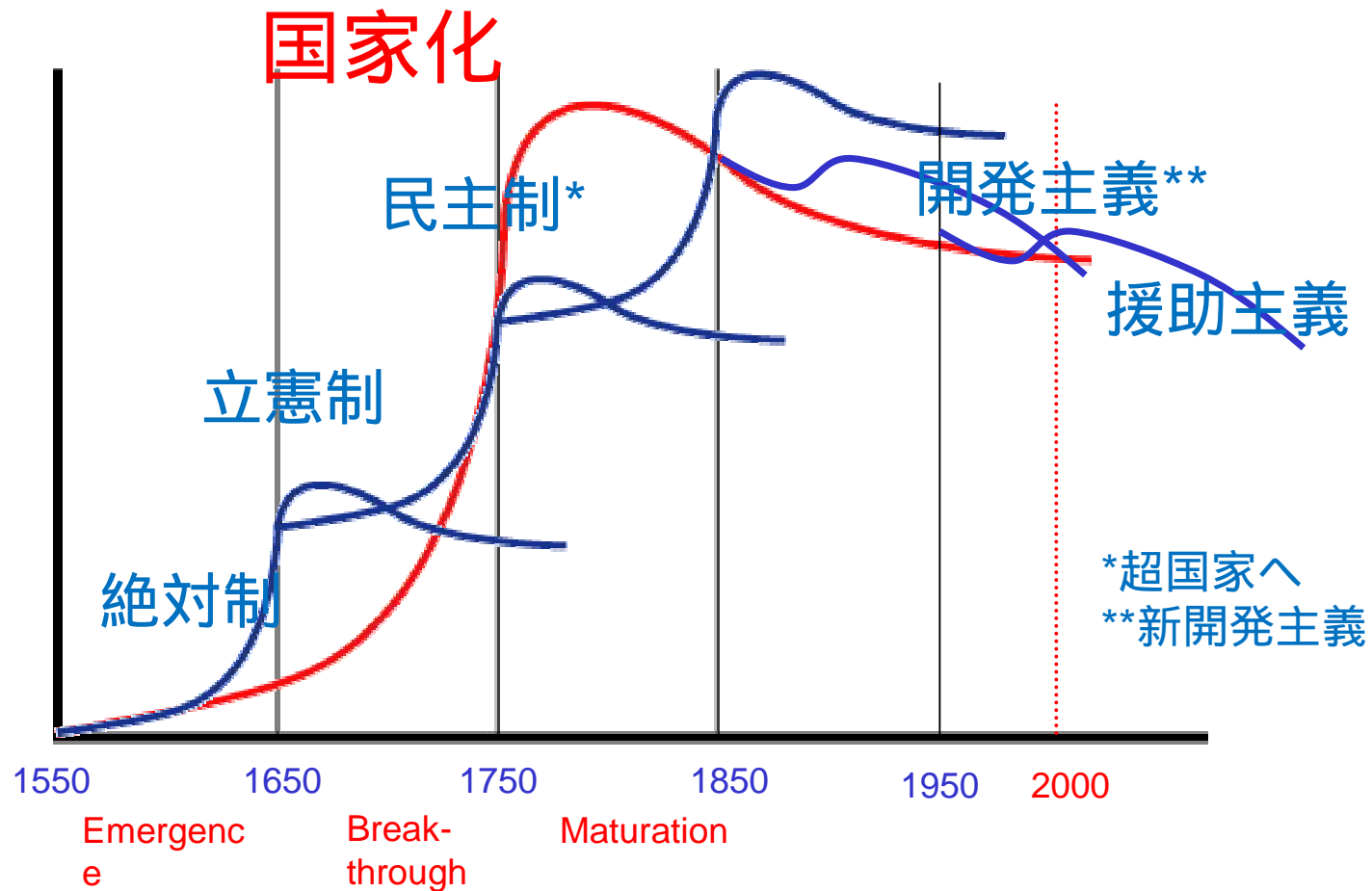
S字波複合による狭義の近代化の三局面仮説



主要キーワード

- 戦争 平和、競争 繁栄、共働 共愉
- 脅迫・強制、取引・搾取、説得・誘導
- (国家・国民)主権、(市民・国家)所有権、(智民)情報権
- 主権国家、産業企業、情報智業
- 国民、市民、智民
- 国際社会、世界市場、地球智場
- 威のゲーム、富のゲーム、智のゲーム
- 国際化(G1.0)、世界化(G2.0)、地球化(G3.0)

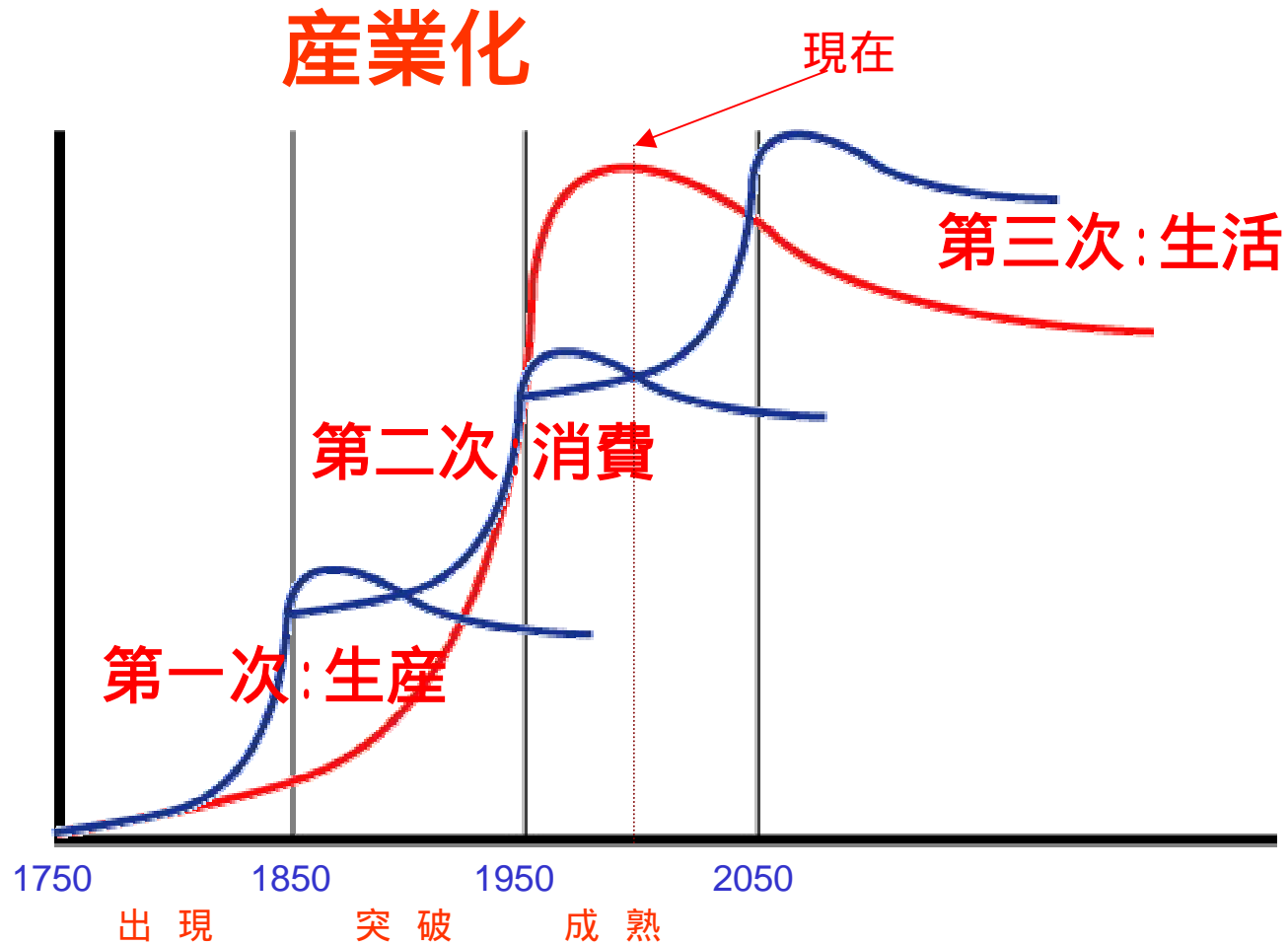
国家化の小局面



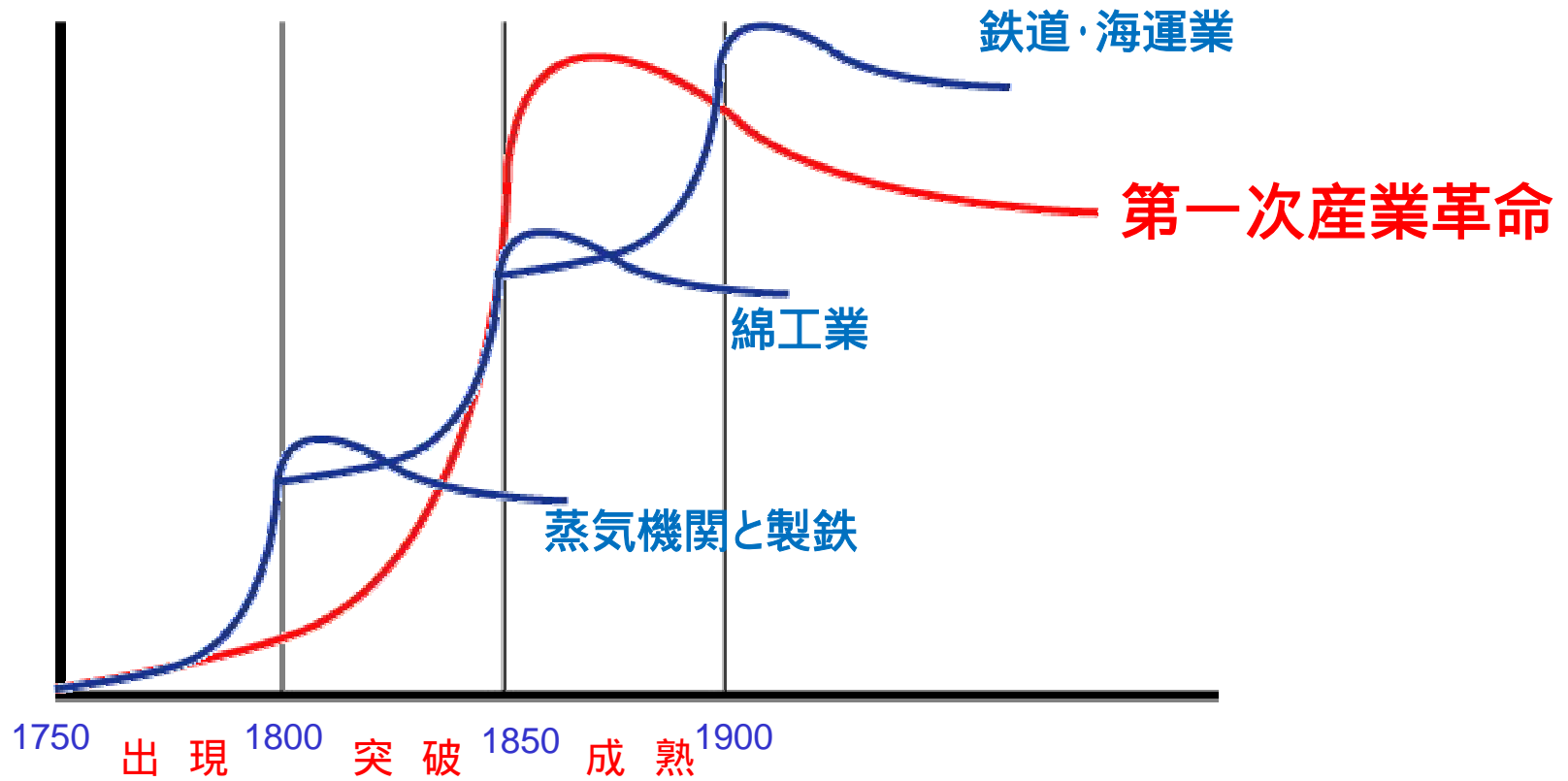
定着・変質に向かう 西欧的軍国家の5局面

- 1550-1700:出現:絶対王政
- 1650-1800:突破:立憲君主政
- 1750-1900:成熟:民主共和政
 これが世界標準になる
- 1850-2000:定着前期:開発主義
 - 米・独・日 ソ連・独・日 四小龍・中・印
- 1950-2100:定着後期:共発 / 援助主義

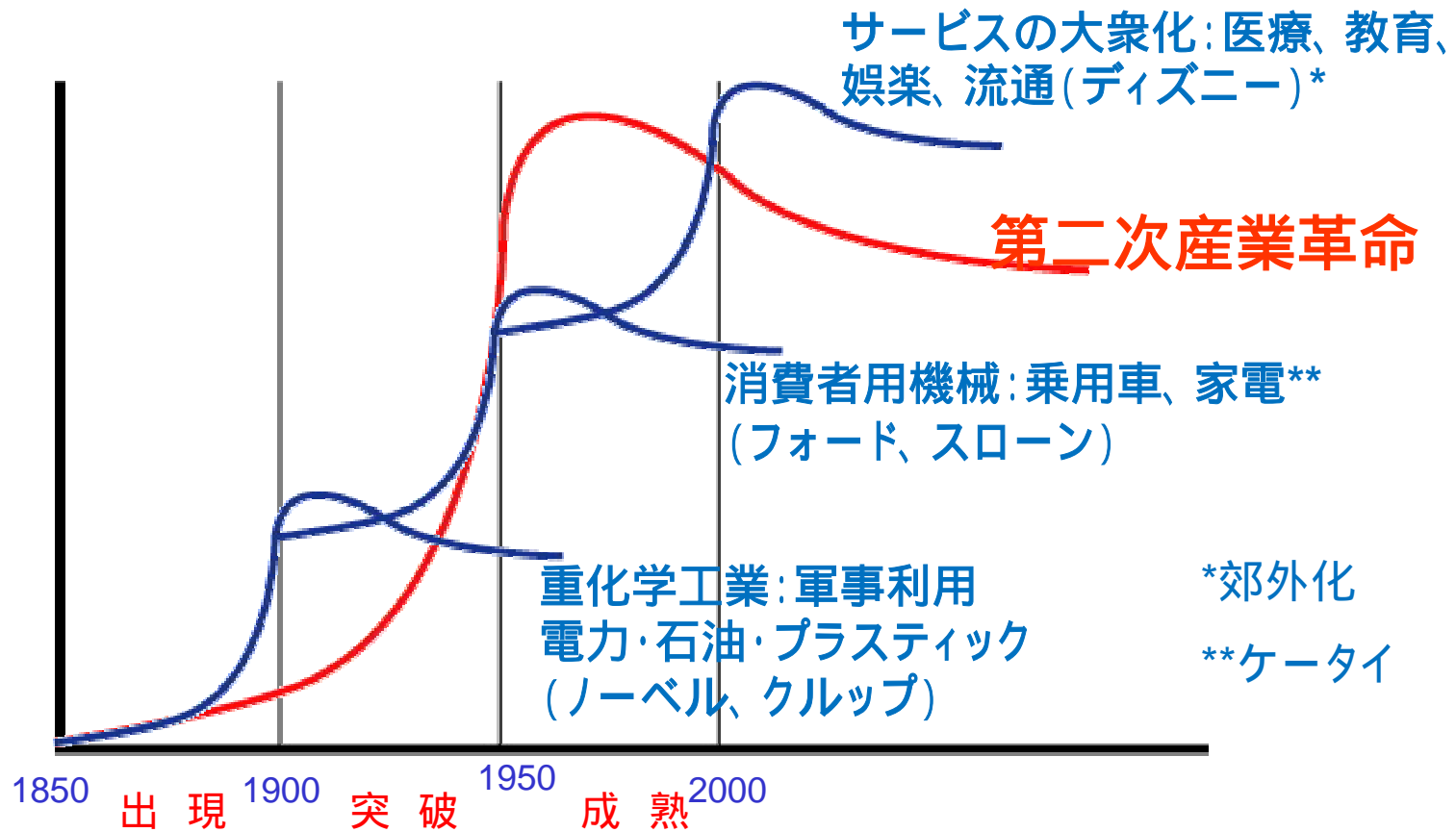
産業化の小局面



第一次産業革命の三局面

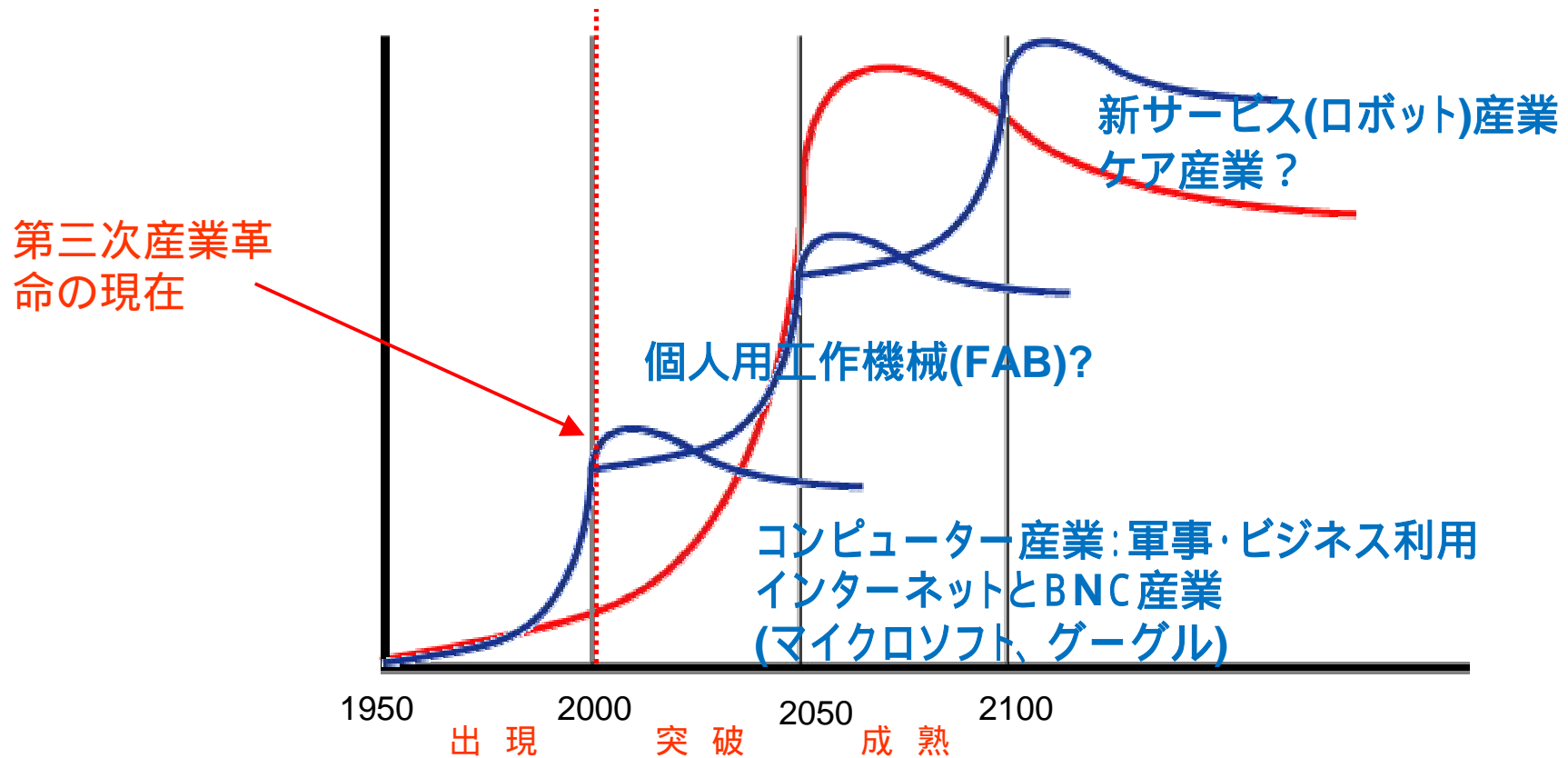


第二次産業革命の三局面



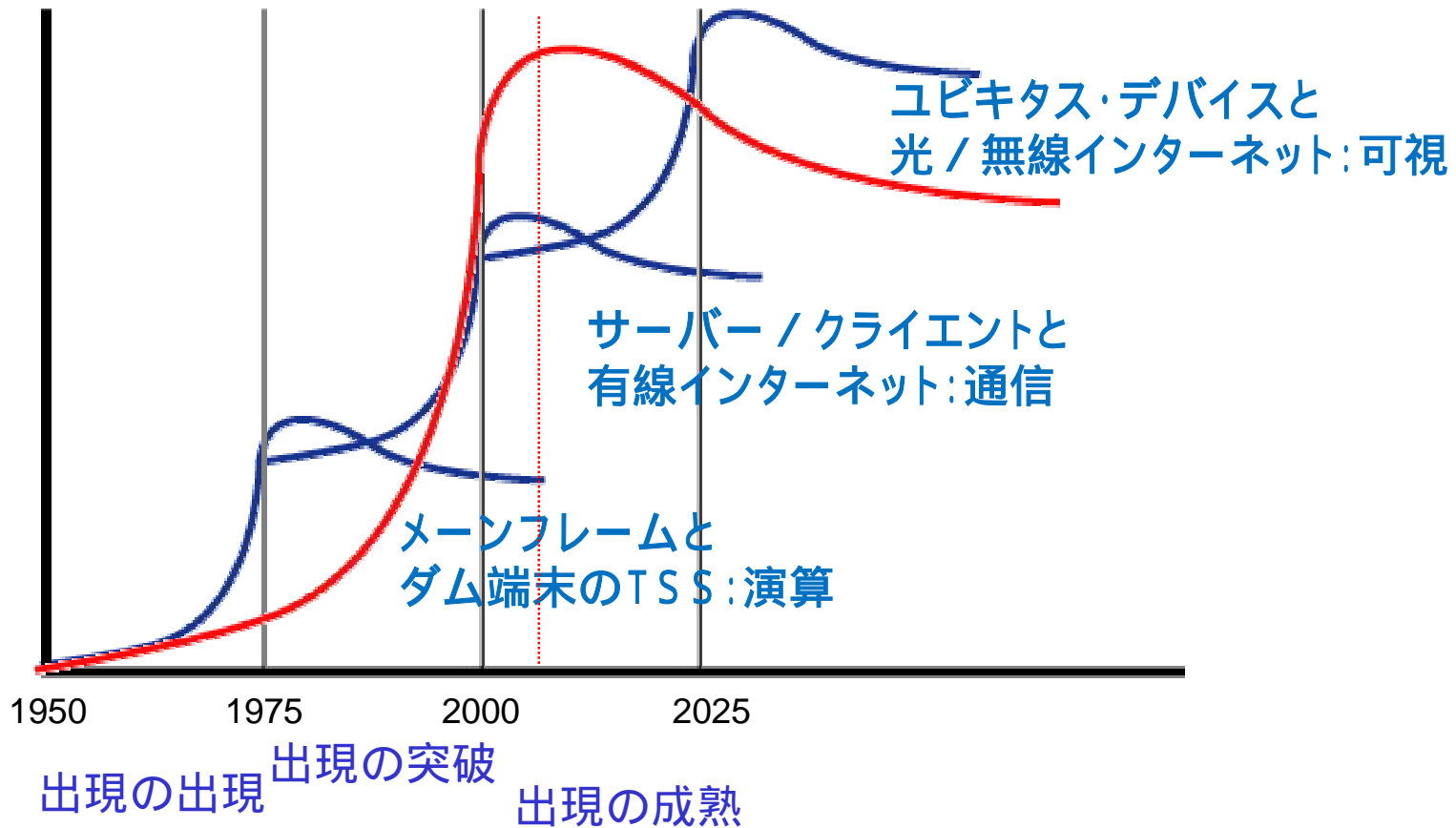
第三次産業革命の三局面

第三次産業革命

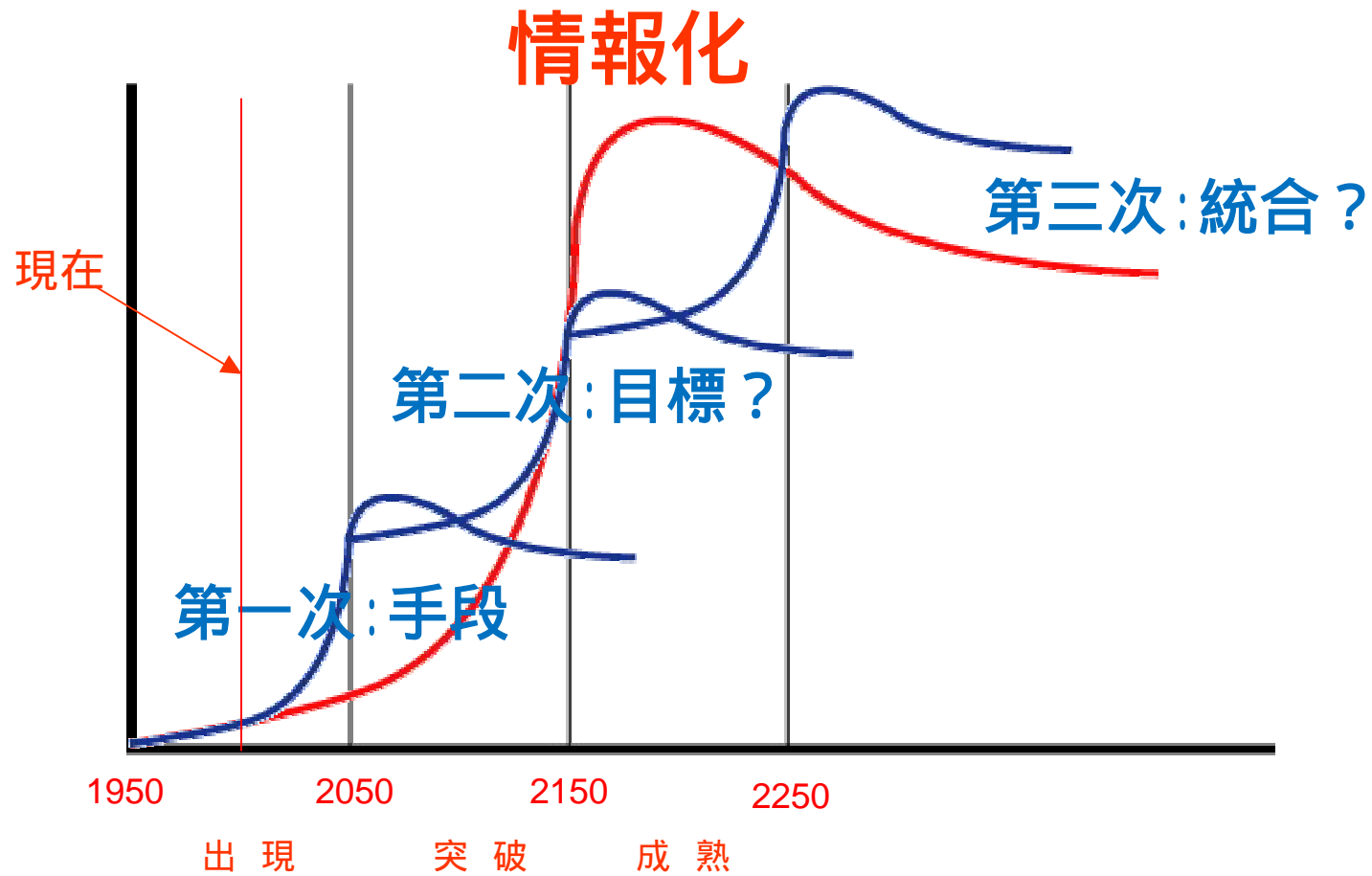


第三次産業革命出現局面の三小局面

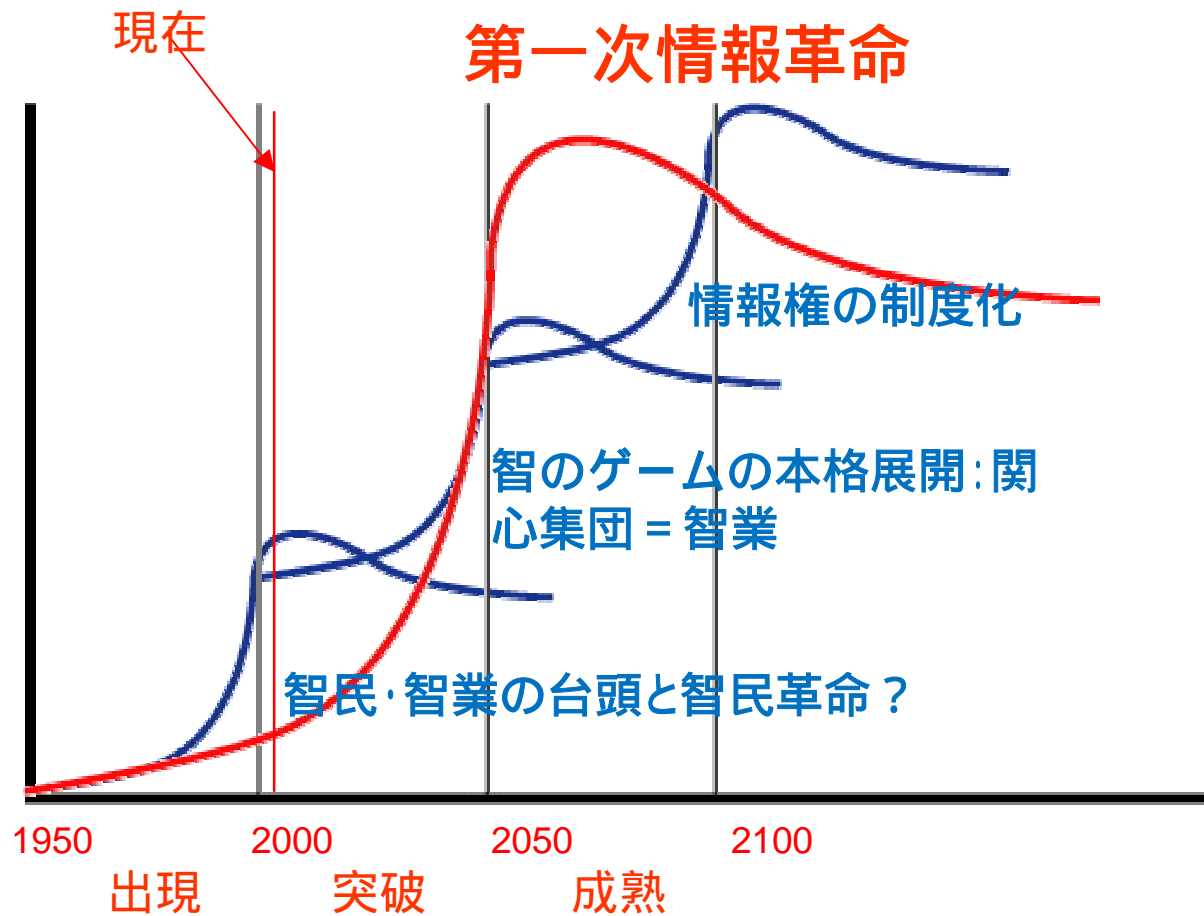
コンピューター産業



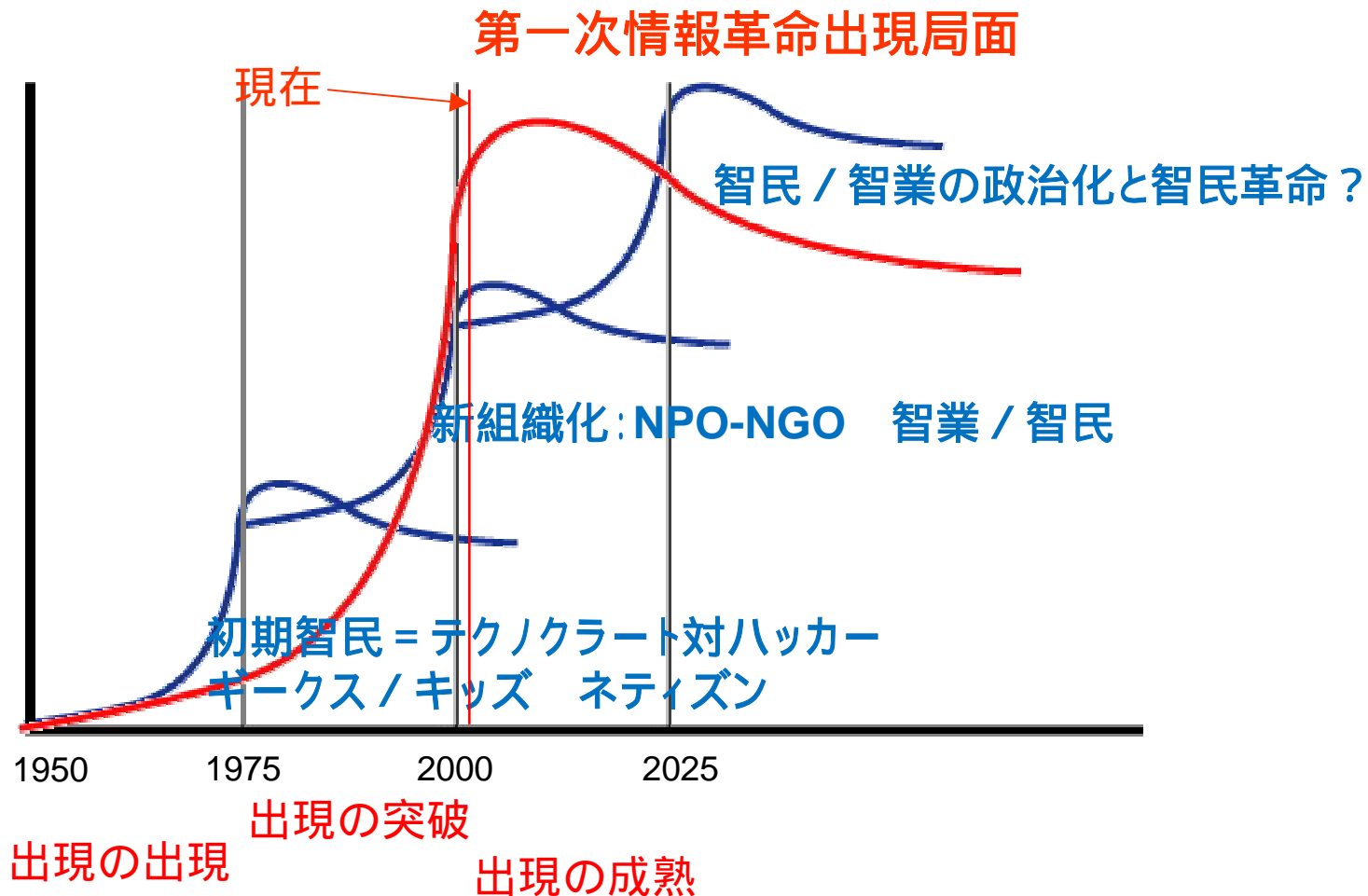
情報化の小局面 産業化等との類推で



第一次情報革命の三局面



第一次情報革命出現局面の三小局面



情報権の三つの柱と権利間調整

- 情報自律権・セキュリティ権
 - 情報帰属権・プライオリティ権
 - 自己情報管理権・プライバシー権
-
- 三つの柱の間の調整の必要
 - 主権・財産権(とりわけ知財権)との調整の必要と

現代をみる複眼的視点：文明内競争

- 国家化：超国家化(ポスト威のゲーム)、新開発主義、共発主義
- 産業化：
 - 郊外化：第二次産業革命の成熟の成熟
 - ケータイ(究極の家・個電)：第二次産業革命の突破の定着
 - ユビキタス化：第三次産業革命の出現の成熟
 - 新主導産業：第三次産業革命の突破の出現
 - それはどんな産業か？ どこでだれがそれを主導するのか？
- 情報化：共働、評判ゲーム、ネット政治
 - CGM,UGC、ウェブ2.0、オープン化 通識と智本



現代世界の四つの基本問題

現代世界は**文明内競争**へ

国家化は**ポスト威のゲーム**へ

開発主義第二波と共発主義第一波

産業化は**第三次産業革命の突破**へ

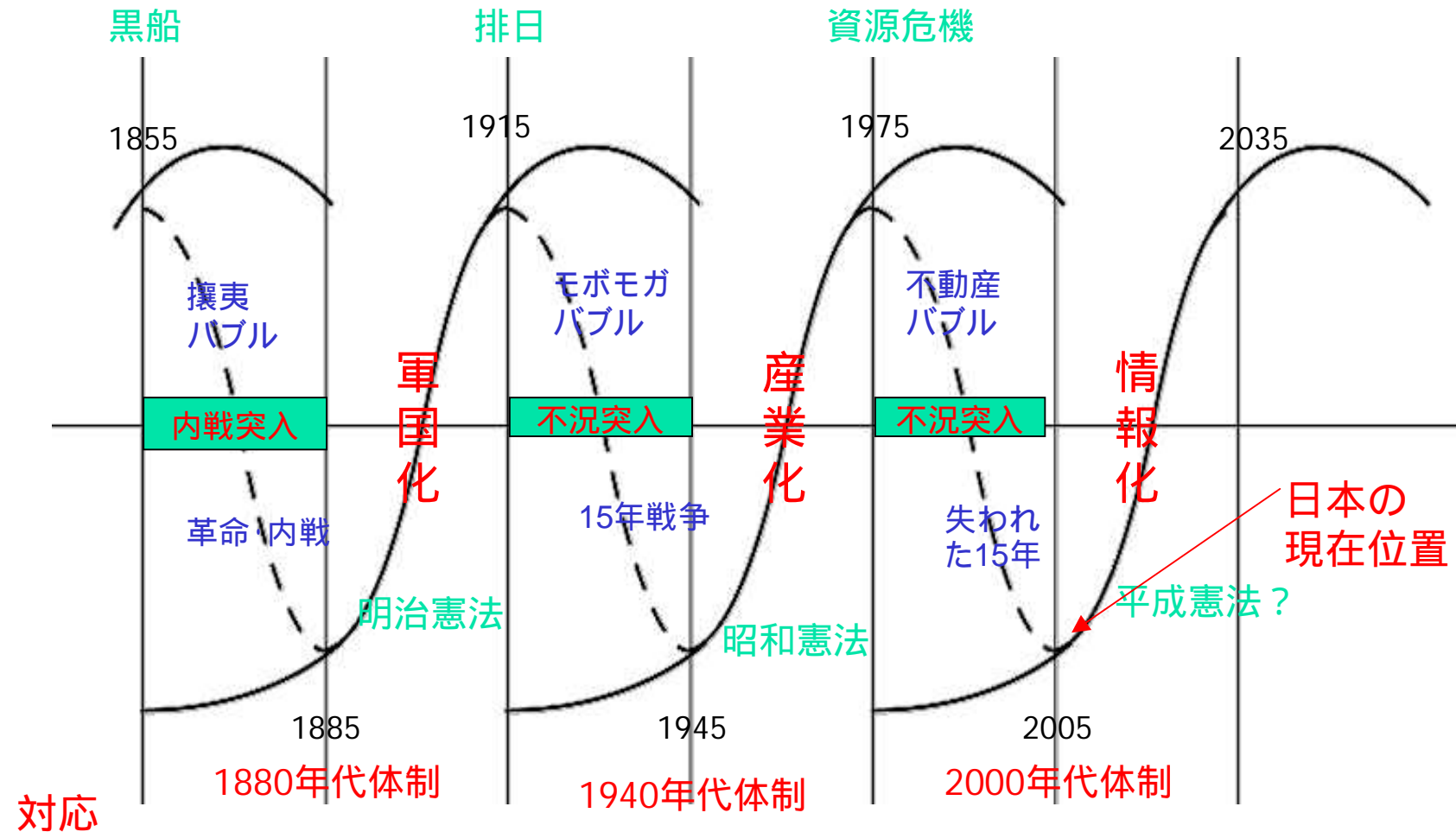
情報化は**第一次情報革命の突破**へ

情報化の近未来

- 第一次情報革命の「突破」: 智民革命?
 - 「智民」の台頭から「智業」による智のゲームへ
 - 巨大な「通識ベース」と「ウェブ・サービス」の構築が中核となる
 - 独占化(グーグル)と共働(オープン化)の共存
- E2Eから、エッジの一部の異常肥大へ
 - 「パイプ」対「データ(通識)」の競争
 - パイプ 知財 か、データ パイプ か?

「2000年代体制」のもとで 新たな長期上昇に向う日本

挑戦



対応

真のイシューと虚のイシュー

- 戦後民主主義の堅持が「ふつうの国」か
 - 戦後民主主義の二面性
 - 半国家と共働国家
- 戦後社会主義の堅持が「グローバル化」「構造改革」か
 - 戦後社会主義の二面性
 - 開発主義と福祉国家
- 真の中心的イシューは情報化に対して取る態度
 - 著作権、連邦国家、共働主義...

拡大近代化論(梅棹文明史観の拡張)

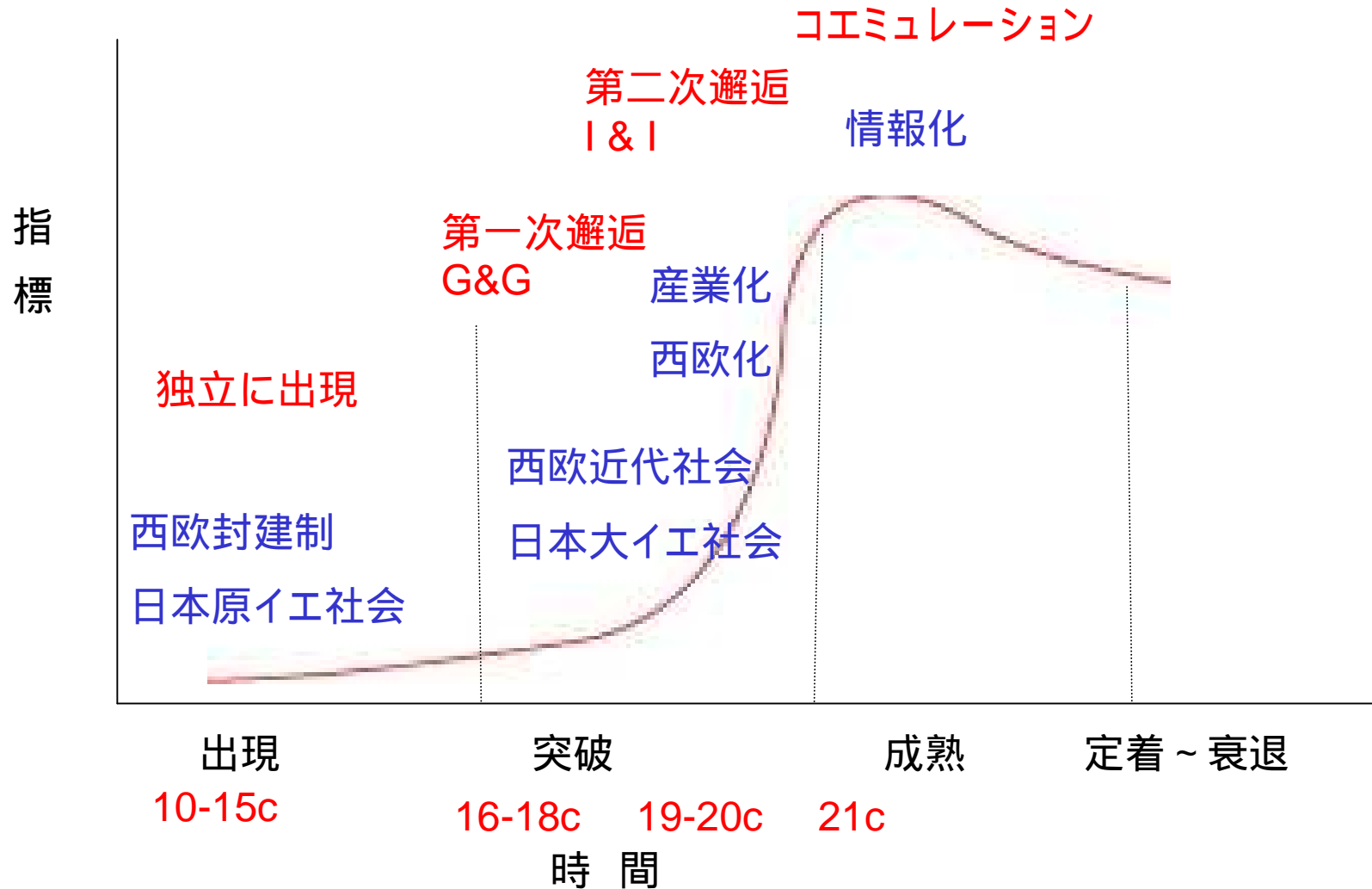
- 「西欧的近代化」は、広義の近代化の「突破」局面にあたる
 - 出現: 10世紀～: 封建化: 国家化
 - 恐らく地域的・精神的自立化の試みはグローバルに発生
 - 突破: 15世紀～: 資本主義化: 産業化
 - ヨーロッパが他を淘汰、日本は辛うじて発展を継続
 - 成熟: 20世紀～: 情報化: 和と共働
- 日欧は邂逅しつつ並行的に近代化した
 - 第一次邂逅: 16世紀: 二つのG 棄却
 - 第二次邂逅: 19世紀: 二つのI 棄却
 - 第三次邂逅?: 21世紀: コミュニケーション



近代社会の基層文化の相違

- 調和・共存型（「和をなす文明」へ）
 - 適応型：日本
 - 維持型：アフリカ、南仏、インド、南中国？
- 対立・支配型（「敵を作る文明」へ）
 - 制御型：西欧
 - 専制型：スラブ、イスラム、北中国？

日欧の並行的近代化



日本の広義の近代化過程

- 出現局面は10-15世紀:東国武士団の初期原イエ 「関東御分国」
- 突破局面は16-19世紀:中部の後期原イエ 領国 徳川連合国家
 - 農民の武士化:惣村から領国への「下克上」:地域国家化
 - 地域的主権国家(領国)の連合国家:天下布武、勤勉・能力主義革命
- 突破局面は19-20世紀:西欧化へ
 - 開発主義的西欧化に驀進:主権国家化と産業化
- 成熟局面は21世紀:グローバル化、情報化へ
 - 再び地域が中核に:地域情報化 ネット化 日本連邦?
 - 日本的文化要素の優位:共働・調和の重視、環境との共生
 - 東西近代文明の「融合」とポストモダン文明の準備

過去への延長：社会変化のS字波

- 1495 - 1525 - 1555 - 1585：戦国時代の始まり
- 1555 - 1585 - 1615 - 1645：天下統一(信長・家康)
- 1615 - 1645 - 1675 - 1705：統治機構確立(家綱 + 一門)
- 1675 - 1705 - 1735 - 1765：農業(吉宗)：「勤勉革命」
- 1735 - 1765 - 1795 - 1825：商業(田沼)
- 1795 - 1825 - 1855 - 1885：攘夷、初期産業化
- 1855 - 1885 - 1915 - 1945：国家化
- 1915 - 1945 - 1975 - 2005：産業化
- 1975 - 2005 - 2035 - 2065：情報化

中国の未来：五つのモデル

- 現実性に乏しいもの：
 - ヨーロッパ・モデルに接近：自由と民主
 - 没落と易性革命モデル：伝統への回帰
- 受け入れがたいもの：
 - 20世紀前半の世界戦争モデルの再演
 - 20世紀後半の冷戦モデルの再演
- 新(智識)文明国家モデル？
= 中国的グローバリゼーション

新たな可能性：共存・共栄・共愉

- 産業化：新成長機会
 - 新デジタル財/貨幣/世界
 - new digital itemsのRMT
 - “Second Life” に企業や大学や大使館が
 - 新型機械：万能機械、個人用工作機械：共発の手段
- 情報化：新しい価値(共愉)と相互行為(共働)
 - オープンソース(情報の開示と通有)と共働(相互監視も)
 - 新インフラとプラットフォーム
 - 情報通信の「フリーウェー」：ポストインターネット
 - 通識の智本化：共通デジタル・フォーマットと辞書
 - 智のゲーム Wisdom Game の普及

デジタル知としての通識・智本

21世紀地球社会の基本課題

(1):近代化支援

- 国家・超国家的機関の役割は大
 - 共発援助:産業化の推進とデジタル・デバイド解消
 - 智のゲームのための新ルール:情報権関連の
- 企業による支援も重要
 - 情報化のための基本インフラ
 - 情報化のための各種のプラットフォーム
 - 知識ベースと収入機会

21世紀地球社会の基本課題

(2) : 暴発の抑制

- 核拡散とテロリズム対策
- 環境・資源保全
 - 物的環境 : 温暖化と人口爆発
 - 心的環境 : 精神衛生
- 健康面 : 近代の三つの病気
 - 国家化局面 : 伝染病 (ペスト、赤痢、天然痘 . . .)
 - 産業化局面 : ストレス病 (胃潰瘍、心身症等)
 - 情報化局面 : 精神病

21世紀地球社会の基本課題

(3) : 中庸・バランスの維持

- 監視と自己情報保護の間
- 通識化と知財権保護の間
- 集中(グーグルゾン)と分散(P2P)の間
- 規制と競争の間